

スーフィー心理学の先行研究レビュー
——トルコのスーフィー心理療法の伝統と現代的展開——

藤本 あずさ*

A Survey of Previous Studies on Sufi Psychology:
Traditions and Contemporary Developments of Sufi Therapy in Turkey

FUJIMOTO Azusa

The purpose of this paper is to clarify the contemporary rise of Sufi psychology, which has inherited a rich tradition and wisdom. Although the word “psychology” has a modern image, the Islamic world has been paying its attention to the human mind since its earliest days. Especially, psychology is closely related to Sufism. Turkey, in particular, has already conducted research focusing on practical healing through the application of Sufism to psychology and psychotherapy. In Japan, however, Sufi psychology has not yet been addressed and discussed sufficiently, which is an issue that needs to be resolved.

Sufi psychology unites all Sufi practices, including music, poetry, dance, and ascetic practices, in order to lead people to a healthy state of mind, and to free them from suffering and stress using spiritual methods. Furthermore, Sufi psychology connects the disciplines of medicine, religion, and psychology to constitute healing. In these respects, Sufi psychology is unique and different from Western psychology, and hands-on research using Sufi psychology has been increasing in recent years. Nowadays, various media (music, books, internet) are responsible for the spread of Sufi psychology. Sufism is flexible and adaptable to the demands of society. This positive characteristic makes Sufism not a symbol of the antique, but a shape-shifting icon that can become more widespread.

はじめに

「心理学」という言葉には近代的な響きがあるが、イスラーム世界では初期の頃から人間の「心」を扱ってきた歴史が続いている。というのも、西暦7世紀からおよそ西暦10世紀に相当する初期のムスリムたちは人間の本質を‘ilm al-nafsiya¹⁾ (自己認識)と呼び、多くの場合、彼らの著作は今日普及している心理学的理論や実践の原型を生み出した [Haque 2004: 357]。これはイスラームが心理学の発展に大きく貢献してきたことを示している。しかし当時は心理学という言葉は存在せず、心理学への試みは主に哲学的な著作の一部に含まれた [Haque 2004: 357]。つまりイスラーム世界の心理学は、哲学の文献翻訳が本格化した9世紀以降の哲学者らの功績に加え、イスラームの思想や原則といった枠組みに則った視点で築き上げられていった。

他方、スーフィズムにも心理学は密接に関連している。心のあり方を探究するスーフィズムの理論を「靈魂論」と呼ぶことが多いが、この語は英語で psychology つまり「心理学」と表現され、心の問題に注目する [東長 2016: 35-36]。このようにイスラーム世界では長きに渡って多面的視点から心に目を向けてきた文化を有する。なかでもトルコは既にスーフィズムを心理学及び心理療法に

* 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科

1) [Haque 2004: 357]の原文には‘Ilm-alNafsiat’と記載されているが、‘ilm al-nafsiya が正確だと判断し、ここでは筆者が修正を加えた。

応用した癒しの実践に関する研究が数多く存在し、注目されている。しかしながら日本においてはまだ「スーフィー心理学」といった言葉自体になじみがなく、十分に論じられていない。

本稿は始めにイスラームの心理学の歴史の変遷を概観し、そしてスーフィー心理学の先行研究と研究動向を示す。最後にスーフィー心理学という新時代的な姿で今もなお民衆の心を捕らえ続けるスーフィズムの新たな可能性と今後の展望を述べる。

1. イスラーム世界における心理学の発展

1. ビーマーリスターン

8世紀から15世紀に及ぶイスラーム黄金時代に病院(ビーマーリスターン)がいくつか誕生した。その中でも8世紀末にアッバース朝カリフのハールーン・ラシード(Hārūn al-Rashīd)がバグダードに建設を命じたのがイスラーム世界における初の本格的な病院である[羽田2002: 815]。ビーマーリスターンではハーブの知識に基づき薬を提供し、うつ病患者を和らげる薬物療法や、ウードとネイを主体とする音楽療法、さらに入浴時にフレグランスオイルを使うアロマセラピーなどの多様な方法が採られた[Gorini 2008: 16–17]。それは当時の医師や学者は宗教的影響を受けながらも、ガレノスの体液説に基づく医学知識を用いてイスラーム独自のメンタルヘルスの理解を発展させた[Mitha 2020: 763–774]からである。加えてクルアーン²⁾には「アッラーから保管を委託された財産を、精神薄弱者に渡してはならない。そして、かれらに衣食を与え、懇切に言葉優しく話しかけなさい。」(4: 5)や、「盲人は(出征しなくても)罪はなく、足の障害者や病人にも罪はない。」(48: 17)といった記述がある。これらの章句は病人を看護するという宗教的責任に基づいており、心を病んだ人をケアする施設の開設を正当化している[Mitha 2020: 763–774]という点において、彼らが人道的に守るべき存在とされていたことは明らかである。

2. トルコにおけるダーリュッシファー

ビーマーリスターン(bīmārīstan)には多様な名称が存在する。中央アジアではdārūlmerza(ダーリュルメルザ)、セルジューク朝ではdārūlāfiye(ダーリュルアーフィイエ)やdārūṣṣifā(ダーリュッシファー)、そしてオスマン帝国ではdārūṣṣifā(ダーリュッシファー)に加え、dārūṣṣihha(ダーリュッスッハ)やṣifāhāne(シファハーネ)、bīmārīhāne(ビーマールハーネ)、tumarhane(トゥマルハーネ)という言葉で呼ばれた³⁾。ダーリュッシファーとはトルコとイスラーム世界において、実践と観察に基づいて人々にヘルスサービスを提供し、患者を治療する医療・教育機関に与えられる名称のひとつである[Erdal and Erbaş 2013: 1]。トルコの療養施設内で本格的な音楽療法が行われるようになったのはオスマン朝時代のことである[Erdal and Erbaş 2013: 5]。施設では現代におけるセラピストに最も近い役割に相当する介護士を雇い、さらにプロの音楽家が患者のために演奏していた[Peterson 2021: 4]。当時のワクフには医師以外にも薬剤師やパン屋などの多様な職業が記載されており[Dişli 2015: 257]、施設内では兼業をするのではなく、それぞれの専門家が独立して勤務していた形態が判明している。音楽療法が行われていたダーリュッシファーのうち、現存するのは以下の施設である[Erdal and Erbaş 2013: 1]。

2) 三田了一 2001『聖クルアーン——日亜対訳・注解』日本ムスリム協会。

3) Terzioğlu, Arslan, “BİMÂRİSTAN,” *TDV İslâm Ansiklopedisi*, <<https://islamansiklopedisi.org.tr/bimaristan>> (2021年7月24日閲覧)。

- ・ゲヴェル・ネスイベ病院及び医学校 (tr. *Gevher Nesibe Darüşşifası ve Tıp Medresesi*) —— トルコの中央部カイセリにあるアナトリア最古の医学校、1206年創立。現在この建物はセルジューク文明博物館として使用されている。
- ・ディヴリイの大モスクと病院 (tr. *Divriği Ulu Camii ve Darüşşifası*) —— トルコのスイヴァス県ディヴリイ区にある大モスク(ウル・ジャミイ)と病院(ダーリュッシファー)。1228年創立。世界遺産に登録されている。
- ・アマスィヤ病院 (tr. *Amasya Darüşşifası*) —— トルコ北部にあるアマスィヤの病院。1309年創立。
- ・ファティフ病院 (tr. *Fatih Darüşşifası*) —— イスタンブールの旧市街であるファティフ地区にある病院。1470年創立。
- ・エディルネ・スルタンバーイエズィード2世病院 (tr. *Edirne Sultan II. Bayezid Darüşşifası*) —— トルコ北西部、マルマラ地方のエディルネ県にある病院。1488年創立。現在はスルタン・バーイエズィード2世健康博物館の複合施設として運営されており、2004年に欧州評議会博物館賞を受賞した。
- ・スレイマニエ医学校及び病院 (tr. *Süleymaniye Tıp Medresesi ve Şifahanesi*) —— イスタンブールにある、スレイマン1世によって建設された学校と病院の複合施設。1556年創立。

アナトリアのセルジューク朝では、治療と教育の両分野での医学教育がゲヴェル・ネスイベ・スルタン・ダーリュッシファー (tr. *Gevher Nesibe Sultan Darüşşifa*) で13世紀頃に始まったのに対し、ヨーロッパでは16世紀後半、つまりセルジューク朝の350年後に現れたと言われている [Erdal and Erbaş 2013: 2]。医学教育機関としての役割と同時に医療機関としての役割を持ち、非常に重視されていたダーリュッシファーはトルコ・イスラームの基礎文化における社会福祉組織であった [Erdal and Erbaş 2013: 2]。教育と医療だけでなく音楽を用いた療養にも注力していたダーリュッシファーは、いずれもドーム型の建築様式が用いられており、音響への配慮がうかがえる。その上ピーマリスターンと同様に患者はワクフによって無償の医療サービスを受けられ、15世紀から16世紀のアナトリアの病院のワクフに記載されている主な職業は医師、外科医、薬剤師、看護師、料理人、パン屋、食糧保管係、洗濯係、入浴係等であり、ワクフはそれらの職種によって使用される特定の機能的空間が病院内に存在していたという情報を提示している [Dişli 2015: 257]。つまり病院内は用途によってスペースが分割されており、無料の医療費で充実した医療環境で患者が過ごしていたことが推察される。このように病院ではクルアーンにある通り病人を尊重し、きめ細かいサービスを提供していた。この点においてダーリュッシファーは Erdal が指摘するように社会福祉組織としての働きを備えており、多くの機能を併設する複合施設として位置づけられる [Erdal and Erbaş 2013]。さらに Çelik によると、18世紀のレバノンのトリポリに存在した病院のワクフにはスーフィーも病院の運営に関与していた記載がある [Çelik 2020]。病院の記録からは、これまで取り上げられなかったスーフィズムの一面が明らかになる可能性が期待できる。

II. スーフィー心理学を発展させた学者たち

心理学に携わる学者としてはガザーリー (al-Ghazālī, 1058–1111) を始め、イフワーン・アッ=サファー (Ikhwān al-ṣafā, 西暦10世紀)、イブン・アラビー (Ibn ‘Arabī, 1164–1240) らが心理学的視点から思想を展開している。なかでもバルヒー (al-Balkhī, 850–934) は神経症(心の病)と精神病

(脳の病)を区別し[Awaad and Ali 2015: 186–187]、イブン・シーナー (Ibn Sīnā, 980–1037)は『医学典範』第3巻で、記憶力の低下は脳の後方に気質の変容や実体の混入などによる損傷があるためだと説明した[矢口 2011: 134]。このようにイスラーム世界では早い時期から既に心と脳を区別していた。

医学的視点ばかりでなく、ダーリュッシファーの例からも明らかであるように、治療には音楽の効果も認められていた。トルコに焦点を当てると、セルジューク朝やオスマン朝の時代には各地で精神疾患の治療に音楽が用いられており、先述したイブン・シーナーを始め、アブー・バクル・ラーズイー (Abū Bakr Muḥammad ibn Zakarīyā al-Rāzī, 584–932)、ファーラービー (al-Fārābī, 870–950)といったトルコの学者や医師たちが音楽療法の科学的な基礎を形成し、精神障害の治療に効果があると提唱してきた[Sezer 2011: 1492]。このように、トルコの思想家の心理学観とスーフィーの心理学についての双方の研究分野には、人間の心理を説明するためにイスラームの枠組みで発展された情報や理論が含まれている[Düzgüner and Şentepe 2015: 46]。

心理学は19世紀後半に哲学から分岐した[Haque 2004: 371]という歴史や上記の学者たちからも明らかのように、心理学の基礎は哲学者によって築かれた。そしてその哲学とスーフィズムの土台をなす部分は同質である。[Düzgüner and Şentepe 2015: 46]によると、イスラームの哲学とスーフィズムは自己、理性、心、精神を人間の本質の一部として捉え、それらのダイナミックな関係性が人間の行動や心身の健康を説明する基礎であり、またイスラーム哲学とスーフィズムのアプローチは初期の哲学的伝統の影響を受けながらもクルアーンとスンナに基づく原理によって形成された[Düzgüner and Şentepe 2015: 46]。つまりスーフィー心理学はイスラームの原理を前提とし、そこに初期の学者たちが成熟させた哲学の知識や音楽の知見、及び医学理論を含む総合的な知が融合し、さらにスーフィズムの理論が加わった、イスラーム世界独自の体系的な心理学である。

III. 音楽療法

音楽はイスラーム文明以前からギリシャ文明で治療として使われていたが、イスラームにおける音楽療法は患者を癒しアッラーと結びつけるために機能し、通常、狂気、うつ病やストレスなどの精神障害を有する患者に適用された[Sufie 2017: 198]。また音楽療法は治療費の削減に加え、副作用のある薬を使う代替となる治療法でもある[Sufie 2017: 196]。中央アジア文化やイスラーム文化、現代トルコ文化では伝統的な治療だけでなく現代的な治療においても楽器を用い、特にワードとネイは音楽療法で頻繁に使用されたが、「音」として捉えた場合の音楽には自然音⁴⁾やクルアーンの朗読、ズィクルなども含まれる[Sufie 2017: 195–197]。

音楽の主な機能は癒しではなく宗教的なものであり、精神的な達成を目的としたものであったものの、一部の音楽様式は癒しであると考えられていた[Aldridge 2006: 67]。癒しの役割を担う音楽を演奏する音楽家は特定のカーストの出身で、スーフィーや後援者と特定の上下関係を築いていた国も存在した[Aldridge 2006: 67]⁵⁾。オスマン帝国では、音楽は身体を癒す力に加え、自分と環

4) 病院の建物の景観も音楽療法の効果的な利用に寄与した。イスラーム時代の病院は趣向の凝った建築様式であり、患者に目を配った機能が施されていた。例えばダーリュッシファーでは、心理的に不安定な患者に静けさを与える要素として水の音を重視した。さらにほとんどの病院には治療の一環として広大な庭園があった。詳しくは[Sufie 2017; Gorini 2008]を参照のこと。

5) 唯一神アッラーの前ではすべてのムスリムが平等とされるが、南アジアではムスリムの間の社会的不平等が一定のレベルにまで制度化されている[小牧 2002: 263]。中東ではカーストは存在しないため、南アジアの国だと思われる。

境のバランスを取り戻す力を有していると見なされていた [Peterson 2021: 4]。それだけでなく音楽はガレノスの4体液のバランスを保つ能力も保持していると考えられ、音楽を通じて宇宙の中での人間の位置を理解しようとする9世紀から10世紀にかけた哲学的な探求というのは、少なくとも17世紀まではオスマン帝国にも健在し、オスマン帝国の医師たちは患者の身体的治療の手段として音楽を用いると同時に乱れた魂を修復する手段としても用いた [Peterson 2021: 4]。

他方、メヴレヴィー教団は、体液のバランスをとる技術としてではなく、精神的な超越の手段として音楽を使用し、魂の治療である彼らの音楽は神との関係において重要な役割を果たした [Peterson 2021: 5]。上記をふまえると、イスラーム世界における音楽は古来より精神を整える力のみならず、宗教的価値もあると認識され、心理療法や修行といった領域に貢献してきた。この点において、イスラーム世界の音楽の活用は癒しといった世俗的なものと魂の修復や神との合一といった宗教的なものをゆるやかに結びつけている意義があると言える。

IV. 宗教心理学の誕生と研究動向の変遷

宗教現象を実証的な方法で究明する科学である宗教心理学は、20世紀初頭に近代心理学と並行して発展し、イスラームの宗派やスーフィー教団は宗教心理学者に広大な研究領域と観察の場を提供している [Hökelekli 2012: 223–245]。トルコでは1950年代以降に宗教心理学の研究が顕著となり、好まれるトピックの動向としてクルアーンと預言者に関する研究は常時人気であるが、その他はアイデンティティ及びパーソナリティの研究(1995年から2000年)、青年期に注目した研究(2000年から2004年)、うつ病や宗教的対処法についての研究(2000年から2009年)、大学生の宗教性の研究(2003年から2009年)、心理療法やメンタルヘルスの研究(2006年から2009年)であり、近年では大衆的な宗教性と文化についての研究の他、改宗、新時代の宗教、意味の探求、グローバリゼーション、個人主義、価値観、マスメディアといったトピックも加えられる [Ağilkaya-Şahin et al. 2012: 281–284]。このような研究動向は宗教に対する世相を反映している。現代的課題として議論されるグローバリゼーションや価値観の差異、マスメディアの発達はいまだにない新たな宗教的な問題に直面させ、その解決方法を宗教心理学という枠組みから模索していると考えられる。これらの問題群の対処法としてイスラームの宗派やスーフィー教団に可能性を感じ、現在イスラーム世界で注視されているようである。

Psychology of Religion in Turkey [Ağilkaya-Şahin et al. 2015] はトルコにおける宗教の心理学を詳細に解説する書籍である。本書では宗教心理学に関する論文について、[Koç 2005] と [Sezen and Yenen 2009] の報告を取り上げ以下のように評価している。[Koç 2005] によると、2004年の時点で神学部の学術雑誌にのみ掲載された宗教心理学に関する論文の主題分布と数は、宗教心理学の主題、研究分野、方法論(34点)、宗教心理学の過去と現在(42点)、宗教と心理学(35点)、宗教的行動の動機(85点)、宗教的経験(22点)、信仰、疑い、無信仰(38点)、祈りと礼拝(17点)、発達段階と宗教(41点)、改宗と再転換(1点)、スーフィー心理学(25点)、その他(52点)であるが、Koç は神学部の雑誌のみが調査対象であったのに対し、[Sezen and Yenen 2009] が調査したものは、2008年時点で国内の雑誌に掲載されている約419本の宗教心理学の論文の主なテーマであり、結果は宗教的発達の段階、宗教生活、メンタルヘルス、人格形成、意味の探求、価値観や態度の形成などがテーマであった。Sezen と Yenen は改宗や背教、そしてパストラルカウンセリングについての研究はわずかしかないと見なす一方、本書で Sevinç と Ağilkaya-Şahin は、パストラルケア及びカウンセリングに関する出版物や研究の数は増加傾向であり、トルコでは最近それらの分野

の人気が高まっていると指摘する [Sevinç and Ağilkaya-Şahin 2015: 19]。

ここでは「パストラルケア」と「パストラルカウンセリング」という用語が使われているが、才藤 [2014] はキリスト教の観点からこのように説明する。「『パストラルケア』ということばの定義はさまざまだが、キリスト教の伝統においては主に、牧師のさまざまな働きのうち霊的(スピリチュアル)なケア、生の意味の問題、究極的な価値の問題に焦点を当てた「魂への配慮」のことを指してきたのである」[才藤 2014: 2]。それに対し、「『パストラルカウンセリング』は、パストラルケアの中で、牧師と支援を必要としている人との間の合意に基づいて牧師のオフィスなどで行われる主に短期のカウンセリングのことを指す」[才藤 2014: 10]。イスラームにおいても同様に、才藤の定義するようなスピリチュアルなケアである「魂への配慮」を指すことに異論はないだろう。さらに「急速にグローバル化する世界が抱える差別や貧困など、さまざまな倫理的課題に答えることも、パストラルケアや牧会神学の重要な使命として議論された」[才藤 2014: 2] という問題点はイスラームの世界においても一致しているのではないだろうか。宗教心理学が解決を目指すテーマのひとつとして、グローバル化が進む世界にどう立ち向かうかという懸念が見られる。この意識というのはパストラルケアや宗教心理学の研究動向が象徴的に投影しており、彼らの思案を象っている。

1. 書籍

今日、宗教心理学について多くの本が出版されているが、そのほとんどは2000年代に出版されている [Sevinç and Ağilkaya-Şahin 2015: 20]。トルコの書籍販売サイトを見るとスーフィズムの関連書籍が豊富に取り揃えられ、関心がうかがえる。一例として *idefix*⁶⁾ というサイトにある検索ボックスで *Sufi* と入力し検索した場合、以下のようなカテゴリーに分類できる。

① スーフィー医学

・『スーフィー医学』 (Muinüddin Çiştî, 2017, *Sufi Tıbbı*, (tr.) Hayrettin Tekumit, İstanbul: İnsan Yayınları.)

② スーフィー音楽のCD

- ・『スーフィー音楽 ネイとタンブール』 (Various Artists, 2017, *Sufi Music Ney-Tanbur*, İstanbul: Jet Plak.)
- ・『スーフィーのネイとピアノ——トルコ神秘主義音楽』 (Dağlı Murat, Mete Artun, 2006, *Sufi Ney and Piano: Turkish Mysticism Sounds*, İstanbul: Jet Plak.)
- ・『スーフィー音楽 ネイとウード——トルコのスーフィー瞑想音楽』 (Various Artists, 2016, *Sufi Music Ney-Ud: Türkisch Sufi Meditation Music*, İstanbul: Jet Plak.)
- ・『スーフィー——ネイとカーヌーン』 (Bulut İrfan, Murat Dağlı, 2014, *Sufi: Ney-Kanun*, İstanbul: Jet Plak.)

③ トークセラピー

- ・『スーフィーセラピストの会話日記』 (Robert Frager, 2015, *Sufi Terapistin Sohbet Günlüğü*, İstanbul: Sufi Kitap.)
- ・『心の会話』 (Ö. Tuğrul İnançer, 2005, *Gönül Sohbetleri*, İstanbul: Sufi Kitap.)

6) URL: <<https://www.idefix.com/yayinevi/sufi-kitap/s=9294>>.

④ 療法

- ・『スーフィーセラピー』（Mehmet Hakan Alşan, 2013, *Sufi Terapi*, İstanbul: Öteki Adam.）
- ・『あなたのセラピストがスーフィーなら』（Ali Rıza Bayzan, 2018, *Terapistin Sufi Olursa*, İstanbul: Tuti Kitap.）

⑤ 心理

- ・『スーフィー心理学』（Kemal Sayar, 2016, *Sufi Psikolojisi*, İstanbul: Kapı Yayınları.）
- ・『精神の病氣と救済——スーフィー心理学ハンドブック』（Ebu Abdurrahman Es-Sülemi, 2019, *Ruhun Hastalıkları ve Çareleri: Sufi Psikolojisi El Kitabı*, İstanbul: Sufi Kitap.）
- ・『スーフィー人格心理学——メラミーの例』（İbrahim Gürses, 2019, *Sufi Kişilik Psikolojisi: Melamiler Örneği*, Ankara: Hece Yayınları.）
- ・『スーフィー心理学ノート 1——精神的な自己啓発』（İbrahim Işıtan, 2020, *Sufi Psikoloji Yazıları 1: Manevi Benlik Gelişimi*, İstanbul: Divan Kitap.）
- ・『スーフィー心理学入門』（Ali Ayten and Sevde Düzgüner, 2017, *Tasavvuf Psikolojisine Giriş*, İstanbul: Sufi Kitap.）
- ・『スーフィー教育における人間及び人間心理学』（Cevad Nurbahş, 2010, *Süfi Öğretisinde İnsan ve İnsan Psikolojisi*, Ankara: Kurtuba.）

これらはほんの一例にすぎないが、2000年ごろからスーフィズムの知恵を応用した内容の書籍が目立ち、需要の高まりがうかがえる。しかし一方で学術的な文献は見当たらず、知的エリートのみならず幅広い層の人が日常生活に気軽に取り込めるような内容のものが多い点が特徴として挙げられる。さらにこれらのカテゴリーの書籍は読者に心身の問題や、どう生きるかという問いに応えるようなものが多い。この点は現代人がスーフィズムにどういった役割を求めているかといった様相を呈している。

V. スーフィー心理学

1. スーフィー心理学の定義と先行研究

スーフィー心理学は、スーフィズムの人間観、人間の行動を方向づける心、魂、靈魂などの要素、人間の自己および他者や神との関係に関する諸々の視点の心理学的な観点からの考察を含むものである [Ayten and Düzgüner 2017: 44]。心理学のデータを用いて、スーフィーが予見する魂の浄化と道徳的成熟の実現の効果を理解する試みをスーフィー心理学として定義でき、この点でスーフィー心理学は宗教が人々に与える影響を扱う宗教心理学の下位区分と見なすことができる [Ayten and Düzgüner 2017: 44]。

[Ayten and Düzgüner 2017: 45] は心理学とスーフィー心理学の間にあるいくつかの研究分野の境界を次のように設定する。心理学は人間の感情、思考、行動を研究する科学分野であり、宗教心理学は、個人が信じるか否かがその人の人生に与える影響を調べる科学の一分野である。そして宗教心理学は特定の宗教的伝統に基づいて作られた宗教の心理学研究を包括しており、キリスト教心理学、仏教心理学、イスラーム心理学などが挙げられる。イスラーム心理学は、コーランとスンナを始めとするイスラームの教えに基づいた心理学研究で構成されているのに対し、スーフィー心理学はイスラームの内面、つまりスーフィーの体験を心理学的観点から検討する特定の分野であ

る。これらの範囲の関係を図に表したものを以下の図1に示した。

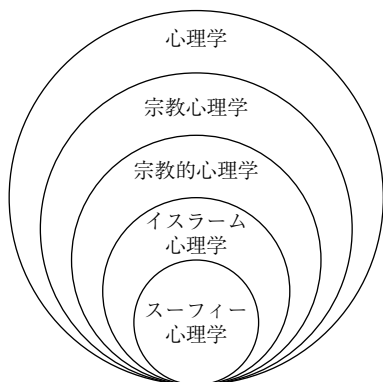


図1 「一般から特定に至る心理学研究分野」
出典 [Ayten and Düzgüner 2017: 45] を筆者和訳。

このように、トルコではスーフィー心理学が宗教心理学に先だって研究され始め、現代では書籍によって一般の人々にその分野が知られつつある。イスラームが最初に神秘的形態で拡大したトルコでは、宗教生活の軸となる人々の行動様式にスーフィズムの痕跡を観察することができる [Ayten and Düzgüner 2017: 44] が、音楽や書籍を通じて宗教生活の一部にスーフィー心理学が溶け込み込んでいる動向が見られる。

2. スーフィー心理学の根幹

スーフィー心理学においては「心」(qalb)、「肉欲」(nafs)、「靈魂」(rūh)の3つが主要な概念である [Frager 1999; Düzgüner and Şentepe 2015]。Fragerは上記の「心」、「肉欲」、「靈魂」を説明するが、要約すると概要は次の通りである。「心」は精神的な知識の源であり、洞察力、理解力、知恵が含まれ、スーフィーの目標は思いやりのある心を持ち、理解力を促進し、導師として心を磨くことである。他方、低次の自我(エゴ)及び「肉欲」は、精神の最もネガティブな部分であるが非常に尊い状態にまで変化させることが可能である。この肉欲にはいくつかのレベルがあり、その最も低いレベルにはすべてのネガティブな感情が含まれているが、しかしそのような感情はより高いレベルに上がるにつれて浄化され、悟りが開かれる。次にスーフィズムにおける「靈魂」とは、人を生かし、スーフィズムにおける完全性の原則に従って向上させる要素を表す。さらに「靈魂」には鉱物、植物、動物、人間、霊性、本質、本質の中の本質という7つの次元があり、それぞれ異なる意識状態を示している。そしてスーフィズムの目的とは、これらのバランスを保つことである。

上記からスーフィー心理学はスーフィズムがこれまで長い伝統のなか築き上げてきた理論に準じて「心」「肉欲」「靈魂」を成長させ、これらのバランスを整え、調整することで精神を安定した状態に保つという点に主眼が置かれている。

3. 心理学とスーフィズムの対比

心理学並びにスーフィズムはどちらにおいても、人の心や精神状態を良い状態に導くといった点で共通している。というのも、セラピストと患者の関係とスーフィズムの師弟関係は両者とも人々を痛みから救おうとする [Düzgüner and Şentepe 2015: 45] 点で一致しており、心理学とスーフィズムは根本的な性質は同じであるように思われる。

先行研究の事例について [Ayten and Düzgüner 2017: 45] によると、トルコで初めてスーフィズムと心理学を併せて論じた研究は1924年のヒルミ・ズィヤ・ウルケン (Hilmi Ziya Ülken) による「アナトリアの歴史における宗教的な精神観察」と題された2つの論文であり、彼は1946年に「スーフィー心理学」という論文を発表した。その後1952年にはトルコで最初の『宗教の心理学』というタイトルの本がエゲメン (Egemen) により執筆され、彼はこの本の中にスーフィズムに関連する主題に道を拓いた。

このように、トルコではスーフィー心理学が宗教心理学に先だって研究され始め、現代では書籍によ

しかしながらこのように重なる部分が見受けられる一方で、大きく異なる項目がいくつか存在する。ここでは心理学とスーフィズム及び心理療法とスーフィズムのそれぞれの違いを [Düzgüner and Şentepe 2015: 45] を基に確認していく。

表1 <心理学とスーフィズムの違い>

	心理学	スーフィズム
歴史	100年未満	1400年
目的	人間の行動をコントロールし、予測すること	自分とアッラーを知ること
方法	定量的かつ非個人的	質的かつ個人的

出典 [Düzgüner and Şentepe 2015: 45] を筆者和訳。

まず歴史を比較すると、心理学よりも圧倒的にスーフィズムの方が長い。これは、心理学は哲学から19世紀後半に分岐した [Haque 2004: 371] ことにある。目的に関しては、心理学は自身の行動に焦点を当てているのに対し、スーフィズムは自身とアッラーを知ることが重視される。その方法として、心理学は数値を目安とする客観的な手法が採られるが、スーフィズムは自分自身や神に向き合い、内面に集中するため、数値では認識不可能な自身の感覚が必要とされる。どちらも違いは明確であるが、それぞれの特徴を活かし、両軸となって心を支える役割をスーフィー心理療法は果たしている。

4. 心理療法とスーフィズムの対比

「セラピー」⁷⁾ という言葉は、英語では治療や癒しを意味するのに対し、アラビア語では「治癒」に相当する言葉で、「癒す」という意味から派生している [Solihin and Munir 2017: 2584]。トルコ語の *Psikoterapi* とは、心理療法を用いた治療や、宗教的信念や師との個人的な話し合いによる精神疾患や癒しのための特別な技術を用いたものである [Solihin and Munir 2017: 2584]。表2では心理療法とスーフィズムを5つの項目で比較した。

表2 <心理療法とスーフィズムの違い>

	心理療法	スーフィズム
問題の定義	心理的 (mental) 障害	霊的 (spiritual) 障害
目的	メンタルヘルス	魂の治療 神 (the beloved) との合一
プライマリーメソッド	会話	実践
効果	わずかな兆候、順応	より深く、絶え間なく変化する
焦点	人間個人	アッラー

出典 [Düzgüner and Şentepe 2015: 45] を筆者和訳。

心理療法とスーフィズムを比較すると、まず問題点の重心が異なることが分かる。心理療法は心理的な問題、言い換えると精神疾患等のメンタルヘルスに対峙する。一方スーフィズムはというと、霊的障害、いわば魂の問題とその治療に取り組む。その第一の方法としては会話すなわちカウンセリングを行う心理療法に対し、スーフィズムは修行などの実践的な方針で進められる。前者は少しずつ環境になじみ、状況に適応していくような効果が発揮され、他方後者は深部まで到達し、

7) 宗教とセラピーの違いについて堀江 [2009: 359] は、「われわれ自身をどう理解し、どう処遇=治療するかという面での違いにとどまらない。宗教の人間完成は少数者の現象にとどまるのに対し、セラピーは不安を取り除くとかそれを抱えながら生きられるようになるなどといった中程度の道徳的完成をおり多くの人に達成させるという点も、両者の差異として挙げられる」と述べる。

途切れることのない作用がもたらされる。そしてこの場合も前者は個人が中心であり、後者は神が中心として見据えられている。

今日、人々はもはや医学的アプローチのみに頼るのではなく、しばしばスーフィー的アプローチの治療に身を委ねるようになってきている [Solihin and Munir 2017: 2585]。スーフィー心理療法とは、肉体的及び霊的な病気に対する精神的かつ心理的な治療法である [Solihin and Munir 2017: 2585]。心理的障害と霊的障害の両面を治癒することから、上記の差異が打ち消されていることが理解できる。このスーフィー心理療法は、知識、治療、セルフケアを統合的かつ完璧に行うことを主な目的としており、その目的を達成するため個人的資質の成長過程で用いられる方法の一つとしてズィクルが活用されている [Solihin and Munir 2017: 2588]。ここで言及されたズィクルを利用した心理療法についてはV-5.で論じる。加えてスーフィー心理療法は、一般的な心理療法で発展した理論の大部分を保持したまま、宗教的な神秘主義の色合いを持ったアプローチによって、精神疾患や人間の精神を治癒する [Solihin and Munir: 2590]。このように、心理療法とスーフィズムが一体となり、それぞれの利点を抽出したスーフィー心理療法が現在は注目されつつある。

ここで一度スーフィー心理学の癒しについて考察する。堀江 [2009: 276-277] は「治療 / 治癒 (癒し)」の二項対立を「部分的 / 全体的」「対症療法的 / 自己治癒能力の活性化」「病否定的 / 病は成長のチャンス」「身体的疾患への限定 / 心身相関の重視・生き方の変革」といった二項対立に分節化する。そして癒しを「心身の全体的健康の回復であり、それを通じて生き方が変わり、成長すること」と定義している。彼は医学・宗教・心理学の三つの分野で展開する癒しの運動を以下のような図で説明する。

三角形のそれぞれの中点を見ると「宗教と医学の境界領域には宗教的な医療実践である代替医療」「医学と心理学の境界領域には医学的な心理学の実践である心理療法」そして「心理学と宗教の境界領域には心理学機能を持つ宗教的癒しの実践」が置かれ、「全体が癒しの運動を構成している」 [堀江 2009: 277-278]。この癒しの運動はスーフィー心理学がもたらす癒しと一致しているように思われる。まず医学と宗教にまたがる代替医療はスーフィー心理学においては初期の時代から利用されており、医学と心理学にまたがる心理療法には音楽療法やトークセラピー、ビブリオセラピーが含まれる。加えて心理学と宗教にまたがる宗教的癒しとしては瞑想や修行、儀礼への参加、パストラルカウンセリングや導師との対話等が当てはまる。このようにしてスーフィー心理学は医学・宗教・心理学といった分野を連結し、癒しを形成している。

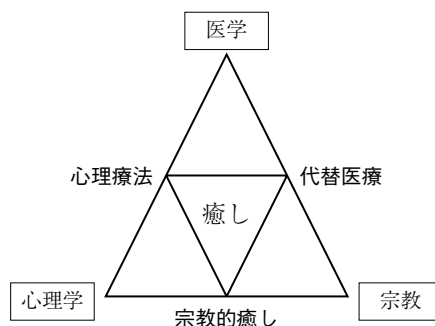


図2 癒しの運動

出典 [堀江 2009: 277]

人間が宗教的・文化的環境の影響を受ける存在であるように、個人に焦点を当てた心理学の研究にも宗教的・文化的環境に影響した痕跡が残存していることから、トルコにおける心理学や宗教心理学の研究には普及しているイスラームの伝統やスーフィーの教えの影響が見受けられ、特にスーフィーの人間観は人々の生活に密着しており、トルコの日常生活にも影響を与えている [Düzgüner and Şentepe 2015: 46]。次節以降はトルコやその他の国で実際に行われているスーフィー心理学及びスーフィー心理療法を述べていく。

5. ズィクルやセマーを用いる療法

ズィクルやセマーにおける瞑想の効果についての研究が増えつつある。ズィクル・セラピーまたはズィクル瞑想とは一般的に呼吸を整え、そして数十分間神を想起する言葉を唱えることで心を落ち着ける療法である。このためズィクル・セラピーは態度や感情などのあらゆるネガティブなものを心の中で浄化し、世俗的なプレッシャーや不安、絶望、憂鬱さから解放され、体力や精神的な活力が向上するうえ、心の中にある生命の精神を呼び覚まし、肉体的にも精神的にもメリットがあると言われている [Solaiman and El Sayad 2013: 24]。さらに、長い伝統を持つ音楽療法も見直され始めている。ここではいくつかの先行研究の概要を要約し、ズィクル、セマー、音楽が実際に与える効果について列挙していく。

- ① A. Helman, M. Amin, A. Muzahidul Islam, and O. Mikami. “Neuroimaging Electroencephalography (EEG) Application on Human Electrical Brain Activities during Meditation and Music Listening.” *Journal of Advanced Manufacturing Technology*, vol. 13, no. 2(2), 2019, pp. 23–33.

脳の電氣的活動を測定する EEG (ニューロイメージング脳波記録) を用いた調査によると、ズィクル瞑想時は音楽を聴くよりも穏やかでリラックスした状態であることが判明した。このような治療法は時間とコストがかからないため、ストレスを軽減するための方法の一つとして役立つと報告した研究である。(マレーシア)

- ② Indriana Istiqomah. “Reduced Addiction in Drugs Abusers Undergoing Dhikr at Ponpes Inabah XIX Surabaya.” *Folia Medica Indonesiana*, vol. 49, no. 1, 2013, pp. 8–11.

ズィクルは内因性モルヒネ様物質、つまり脳内麻薬として機能するエンドルフィンの分泌を増加させ、エンドルフィンが増加すると体内で自然に生成されるモルヒネが正常となり外因性の薬物が不要になることから、薬物乱用者がズィクルを行うと薬物中毒が減少すると考えられると報告する。(インドネシア)

- ③ Hanan Solaiman, and Salwa Atyia El Sayed. “Effects of Zikr Meditation and Jaw Relaxation on Postoperative Pain, Anxiety and Physiologic Response of Patients Undergoing Abdominal Surgery.” *Journal of Biology, Agriculture and Healthcare*, vol. 3, no. 2, 2013, pp. 23–38.

手術を受ける予定のある患者がズィクル瞑想と顎弛緩運動を実践した場合、不安と痛みの主観的指標が低くなるという結果が得られ、加えて不安のレベルも大幅に改善した。従って腹部手術の前後に日常的な看護介入として臨床現場にこれらを取り入れることができるだろうという見解を示す。(エジプト)

- ④ Ririn Afrian Sulistyawati, Probosuseno, and Sri Setiyarini. “Dhikr Therapy for Reducing Anxiety in Cancer Patients.” *Asia-Pacific Journal of Oncology Nursing*, vol. 6, no. 4, 2019, pp. 411–416.

ズィクル・セラピーは、がん患者の不安を軽減するのに大きな効果がある。ズィクル・セラピーは、深呼吸をするだけの簡単な療法であり、ムスリムがよく使うズィクル文が含まれているので、患者が簡単に適用できる。しかし一方でズィクル・セラピーはムスリムにしか与えら

れないため、一般的には使えない点にこの療法の限界があると指摘する。(インドネシア)

- ⑤ Sri Wahyuni, Anies, Ariawan Soejoenoes, Suhartono Taat Putra, and M. Amin Syukur. “Spiritual Dhikr Reduces Stress and Depression Symptom on Primigravidas.” *Pakistan Journal of Medical and Health Sciences*, vol. 12, no. 3, 2018, pp. 1368–1371.

宗教性や精神性が妊娠中の女性の精神的な健康を向上させるというこれまでの研究結果と同じく、通常の助産ケアに加えてスピリチュアルなズィクルを行った初産婦はストレスと抑うつ症状の軽減が認められた。(インドネシア)

- ⑥ Yusuf Cakmak, Gazanfer Ekinci, Armin Heinecke, and Safiye Çavdar. “A Possible Role of Prolonged Whirling Episodes on Structural Plasticity of the Cortical Networks and Altered Vertigo Perception: The Cortex of Sufi Whirling Dervishes.” *Frontiers in Human Neuroscience*, vol. 11, no. 3, 2017, pp. 1–9.

セマー中はDMNの活動(ぼんやりした状態の脳が行なう神経活動)が少なく、心の迷いが抑制されていると予想され、結果として幸福度が向上していると考えられる。加えてDLPFC(背外側前頭前野)⁸⁾の活性低下も見られ、これは正直者の行動の特性に寄与している可能性がある。(トルコ)

- ⑦ Hacer Ugur, Yeşim Yaman Aktaş, Oya Sevcan Orak, Okan Sağlambilen, and İlknur Aydın Avcı. “The Effect of Music Therapy on Depression and Physiological Parameters in Elderly People Living in a Turkish Nursing Home: A Randomized-controlled Trial.” *Aging & Mental Health*, 2017, vol. 21, no. 12, pp. 1280–1286.

高齢者は概してトルコ伝統音楽やトルコ・スーフィー音楽を好んで聴いていることが判明した。8週間、週に3回音楽療法士が選んだ曲を40分間(トルコ伝統音楽を20分、10分休憩、トルコ・スーフィー音楽を20分)聴いた結果、高齢者の抑うつ度や血圧を下げる治療ツールとして音楽が影響力を持っていることが示唆された。(トルコ)

- ⑧ Nils Peterson. “The Music Man: TUMATA and Turkish Music Therapy.” *Liberated Arts: A Journal for Undergraduate Research*, vol. 8, issue 1, 2021, pp. 1–7.

トルコ人音楽家であるオルチ・ギュヴェンチ氏(Dr. Oruç Güvenç)は1975年にTUMATA(トルコ音楽の研究と普及のためのグループ)を設立した。この音楽グループが発表した曲は、メヴレヴィーが唱えてきたズィクルに曲をのせたものである。また彼らはガレノスの4体液説にも影響を受けている。音楽そのものが治療であるというオスマン帝国の考え方により、TUMATAは音楽療法士としての役割を歴史的に継続して担っていると主張する。(トルコ)

これらの研究から、ズィクルやセマーを用いた療法は2000年頃から理系分野の研究対象としても関心を持たれてきていることが明らかである。加えて、ズィクルの瞑想効果は痛みや不安を取り

8) 目標設定、行動計画、実行、作業記憶、モニター、修正といった認知段階を経て、さらに新たな目標設定に至るといった認知活動はいずれも前頭葉、中でも背外側前頭(dorsolateral prefrontal cortex: DLPFC)が決定的な役割を果たしている[山口2008: 284]。

除くために主として医療現場で実践されているが、このような調査報告はインドネシアに多くみられる。他方、トルコは独自の文化であるセマーやスーフィー音楽をメンタルヘル스에活用する傾向がある。先行研究という位置づけとは異なるが、アメリカを拠点とするナクシュバンディー・ハッカーニー教団のシャイフであるヌールジャー・ミールアフマディー師 (Nurjan Mirahmadi) が著した『スーフィーメディテーションにおける癒しの力』(The Healing Power of Sufi Meditation 2005) では、イラスト付きで視覚的に分かりやすくスーフィーの瞑想であるムラーカバの実践方法を解説し、中央アジアのナクシュバンディーのシャイフの古代の教えに基づいて、精神的なつながりの基本を段階的に説明している。このようにスーフィズムではムラーカバ (murāqaba) という古くからの瞑想方法があるものの、最近の潮流ではズィクルや音楽に焦点が当てられた瞑想やセラピーが増えつつある。上記の研究動向は一握でしかないが、今日スーフィズムに求められている効果は、あらゆるストレスや苦痛を取り除き、安定した心の状態を手に入れたいというメンタルヘルスの側面である。それゆえ人々の需要に応え得るか否かを確認しようと研究に取り組んでいるのと同時に、新たなスーフィズムのあり方と可能性を探求しているようである。

VI. メディアを使用したスーフィー療法の現代的展開

1. 夢解釈の歴史と現在

イスラーム初期から夢は重視されていた。イスラーム世界における夢には3種類ある。①神から来る好ましい夢、②悪魔がもたらす邪悪な偽りの夢、③個人の思念や欲望、身体の状態によって生ずる夢であり、預言者自身が夢を肯定的に捉えたためイスラーム世界では社会的・文化的に大きな役割を演じた [杉田 2002: 1024]。それゆえにイスラームの学者たちは常に夢解釈の科学に興味を持っていた [Öngören 2007: 56]。夢を対象とする研究は主に夢の性質、その認識論的価値、象徴の解釈、夢の解釈者の性格などについて行われてきたが、この過程で「普通の夢」と「神秘的な夢」という2つの大きな流れが汲まれ、前者が民衆の夢解釈に用いられてきたのに対し、後者は精神的な教育を受けたスーフィズムに用いられてきた [Öngören 2007: 56]。スーフィズムでは夢は知識の源として受け入れられており、初心者向けの精神的な訓練のためにしばしば夢が用いられるが、スーフィーが捉えてきた夢の解釈はより内的な世界 (enfusi) に関わるものであった [Öngören 2007: 58]。夢解きの書はすでにウマイヤ朝から書かれており、17世紀から18世紀ではナーブルスィーの『夢判断における人間への影響』などが広く読まれている⁹⁾。

彼が所属していたとされるナクシュバンディー教団は世界各国で活動しているが、アメリカに拠点を置く分派 (al-Haqqani ar-Rabbani) は eShaykh¹⁰⁾ という Web サイトを運営している¹¹⁾。eShaykh では信者以外も質問ができ、専属の学者たちが回答してくれるが、とりわけ夢解釈が最も質問数が多く、人々の関心の高さが推測される。eShaykh に投稿される夢の質問はスーフィー教団が運営しているという性格からか、上記でいう「神秘的な夢」の相談が多数寄せられている印象を受ける。一方、トルコでも夢解釈を行うインターネットサイトは数多く存在している。一例として、Diyadinnet¹²⁾ というニュースサイトも夢解釈を提供しており、このサイトでは自分の見た夢の象徴

9) ナーブルスィーはダマスカス生まれの文人、神秘思想家であり、カーディリー教団とナクシュバンディー教団の2つのタリーカに属した人物である。ナーブルスィーについては [東長 2002: 1024] を参考にしている。

10) URL: <<https://eshaykh.com/>> (2021年8月28日閲覧)。

11) ナクシュバンディー教団ハッカーニー派のサイバースペースでの活動についての先行研究は [Piraino 2016] がある。また、ナクシュバンディー教団のサイバースペース上の活動についての先行研究は [Milani and Possamai 2013] が挙げられる。

12) URL: <<https://www.diyadinnet.com/>> (2021年8月28日最終閲覧)。

を検索するとナーブルスィーの著書を基にした夢解釈の結果が表示される。Diyadinnet はどちらかという世俗的な、「普通の夢」の比率が高いようである。このようにスーフイズムと深い関連のある夢解釈は、現在ではメディアを通して日常的に触れられ、民衆とスーフイズムを繋ぐ役割を果たしている。

2. スーフイーの文学作品とビブリオセラピー(読書療法)

音楽療法と同様にビブリオセラピー(読書療法)も古くから存在する療法であり、歴史上最古の臨床治療のひとつである[Atalay 2011: 49]。ビブリオセラピー(読書療法)とは自分の問題を認識し、解決する心理的機能を高めるために、本や文学作品を使用する療法であり、作品をあらかじめ一読し、カウンセリング時に自身の考えや感情を共有し行われる[Kaya 2016: 21]。スーフイーの作品と心理療法の関わりについて、Kaya はルーミーの『精神的マスマヴィー』の「刺青を彫り損ねた男」や「暗やみと象」の物語は精神的な成長を促す書誌的治療の資料として効果が期待され、さらに精神的発達に関するルーミーの見解を理解することで、カウンセラーは患者との一方向及び垂直的な関係をより双方向かつ水平な関係に変化させられる可能性があることから、カウンセラーにとっても示唆に富む作品であると評価している[Kaya 2016]。Atalay もまた心理学は宗教と完全に対立するものではなく、ビブリオセラピーに哲学的・宗教的なテキストを文学作品として含めて応用させるべきだと主張し、スーフイーの本は文学作品及びフィクション・ノンフィクション作品にも分類できるという見解を示す[Atalay 2011]。このようにスーフイーの作品をカウンセリングの中に取り入れようとする取り組みが現在見られる。こういったビブリオセラピーへの応用という試みは、本というメディアを通してスーフイズムが現在の治療の場にも影響を与えつつあることを示唆していると同時に、スーフイズムの正当性を主張する現代的な手段であるという見方もできる。

議論の整理と今後の課題

スーフイー心理学は、人の心を健全な状態に導くために音楽、詩、舞踊、修行などすべてのスーフイズムの営為を総動員し一つに結びつけ、スピリチュアルな手法を用いて人々を苦しみやストレスから解放しようと試行する。加えて医学・宗教・心理学を連結し、癒しを構成している。今日ではメディア(音楽¹³⁾、本、インターネット)がスーフイー心理学の普及の担い手となっている。その理由としては、メディアは少し心が不調であるとき、言い換えれば心療内科に受診するまではいかない程度に問題を抱えている際に、手軽でなおかつ自発的な癒しの実践を提供できる利点が大きいだろう。そしてメディアからの情報発信を含めたスーフイズムの癒しのアプローチは、一般の人々に対するスーフイズムへの敷居を低くする効果があり、民衆への広がりをも促進させることが可能となる。セラピストと患者の関係性とスーフイズムの師弟関係はどちらも人々を痛みから救おうとしている点で類似し[Düzgüner and Şentepe 2015: 45]、さらにスーフイズムには心と向き合ってきた長い伝統による信頼があり、心療内科とはまた少し異なるメンタルケアのアプローチの手法や結果が期待できる。このように社会が求める要素にスーフイズムは柔軟に対応し、見せ方を変えられる特徴も現代社会に取り残されることなく浸透を助長させる一端を担っているのだろう。加えて、言語化できない複雑な心の働きをスーフイズムでは音楽や舞踊、詩の物語を通して直接心に訴えか

13) ここではメディアを「媒介するもの」として定義し、音楽も含めた。トルコにおけるメディアと音楽の関わりと発展については、[鈴木 2015]に詳しい。

け、心理学的に最終的に真理に到達することをスーフィー心理学では目指していると予測する。現代における新たなスーフィズム像の解明を目指す研究に、スーフィー心理学は大きな貢献を果たす可能性を秘めているだろう。今後も、より多くの資料を用いてスーフィー心理学の考察を継続し、実態の解明に努めたい。そのためには思想、音楽、そして身体的実践や文学といったスーフィズムの広範な理解が必要とされており、今後の課題としたい。

引用文献および参考文献リスト

<日本語文献>

- 小牧幸代 2002 「カースト」大塚和夫ほか(編)『岩波イスラーム辞典』岩波書店, p.263.
- 才藤千津子 2014 「パストラルケアにおける3つのパースペクティブ——C・ドーリング (Carrie Doehring) のポストモダンモデル」『同志社女子大学学術研究年報』65, pp.1–11.
- 杉田英明 2002 「夢」大塚和夫ほか(編)『岩波イスラーム辞典』岩波書店, p.1024.
- 鈴木麻菜美 2015 「トルコ共和国における文化形成と民俗音楽のステージ化——民俗音楽楽団ユルッタン・セスレル・コロスを例に」『比較民俗研究』29, pp.117–146.
- 東長靖 2002 「夢判断」大塚和夫ほか(編)『岩波イスラーム辞典』岩波書店, p.1024.
- 2016 「第3章 知を求めるスーフィズム 心理学としてのスーフィズム」東長靖・今松泰(編)『イスラーム神秘思想の輝き——愛と知の探究』山川出版社, pp.35–36.
- 羽田正 2002 「病院」大塚和夫ほか(編)『岩波イスラーム辞典』岩波書店, p.815.
- 堀江宗正 2009 『歴史の中の宗教心理学——その思想形成と布置』岩波書店.
- 矢口直英 2011 「イスラーム医学の脳と精神——11世紀の機械論的解釈」『オリエント』54, pp.120–138.
- 山口修平 2008 「遂行機能障害と前頭葉ネットワーク」『認知神経科学』10, pp.284–289.

<外国語文献>

- Ağilkaya-Şahin, Zuhâl and Ralph W. Hood Jr. 2012. “Introduction to the Special Issue: Psychology of Religion in Turkey,” *Archive for the Psychology of Religion* 34, pp.281–284.
- Ağilkaya-Şahin, Zuhâl, Heinz Streib, Ali Ayten and Ralph Hood. 2015. *Psychology of Religion in Turkey*. Leiden, The Netherlands: Brill.
- Aldridge, David. 2006. “Performative Health: A Commentary on Traditional Oriental Music Therapy,” *Music Therapy Today* 7(1), pp.65–69.
- Alşan, Mehmet Hakan. 2013. *Sufi Terapi*. İstanbul: Öteki Adam.
- Atalay, Mehmet. 2011. “Dealing with Psychological Challenges Through Reading Religious Texts: Broadening the Scope of Bibliotherapy,” *Ekev Akademi Dergisi* 15(48), pp.45–74.
- Awaad, Rania and Sara Ali. 2015. “Obsessional Disorders in Al-Balkhi’s 9th Century Treatise: Sustenance of the Body and Soul,” *Journal of Affective Disorders* 180, pp.185–189.
- Ayten, Ali and Sevde Düzgüner. 2017. *Tasavvuf Psikolojisine Giriş*. İstanbul: Sufi Kitap.
- Bayzan, Ali Rıza. 2018. *Terapistin Sufi Olursa*. İstanbul: Tuti Kitap.
- Cakmak, Yusuf, Gazanfer Ekinci, Armin Heinecke and Safiye Çavda. 2017. “A Possible Role of Prolonged Whirling Episodes on Structural Plasticity of the Cortical Networks and Altered Vertigo Perception: The Cortex of Sufi Whirling Dervishes,” *Frontiers in Human Neuroscience*

- 11(3), pp. 1–9.
- Çelik, Kürşat. 2020. “Trablusşam Dârüşşifâ (Bîmârîstan) Vakfı 1845–1880: Tripoli (Lebanon) Dâr al-shifâ (Bîmârîstan) Waqf 1845–1880,” *The Journal of International Social Sciences* 30(2), pp. 443–458.
- Çiştî, Muinüddin. 2017. *Sufî Tıbbı*. (tr.) Hayrettin Tekumit. İstanbul: İnsan Yayınları.
- Dişli, Gülşen. 2015. “Planning of Functional Spaces in Ottoman-Period Hospitals (Darüşşifâ) of Anatolia,” *Al-Masâq* 27(3), pp. 253–276.
- Düzgüner, Sevde and Ayşe Şentepe. 2015. “Characteristic Themes in Psychology of Religion in Turkey: Muslim Thinker’s Views on Human Psychology of Sufism,” in Zuhâl Ağilkaya-Şahin, Heinz Streib, Ali Ayten and Ralph Hood (eds.) *Psychology of Religion in Turkey*. Boston: Brill, pp. 281–284.
- Erdal, Gülşen and İlknur Erbaş. 2013. “Darüşşifas Where Music Therapy Was Practiced During Anatolian Seljuks and Ottomans,” *Tarih Kültür ve Sanat Araştırmaları Dergisi* 2(1), pp. 1–20.
- Es-Sülemi, Ebu Abdurrahman. 2019. *Ruhun Hastalıkları ve Çareleri-Sufî Psikolojisi El Kitabı*. İstanbul: Sufi Kitap.
- Fragar, Robert. 1999. *Heart, Self, & Soul: The Sufi Psychology of Growth, Balance, and Harmony*. Wheaton: Quest Books.
- . 2015. *Sufî Terapistin Sohbet Günlüğü*. İstanbul: Sufi Kitap.
- Gorini, Rosanna. 2008. “Bimaristans and Mental Health in Two Different Areas of the Medieval Islamic World,” *Journal of the International Society for the History of Islamic Medicine* 6–7(11–14), pp. 16–20.
- Gürses, İbrahim. 2019. *Sufî Kişilik Psikolojisi-Melamiler Örneği*. Ankara: Hece Yayınları.
- Haque, Amber. 2004. “Psychology from Islamic Perspective: Contributions of Early Muslim Scholars,” *Journal of Religion and Health* 43(4), pp. 357–377.
- Helman, A., M. Amin, A. Muzahidul Islam and O. Mikami. 2019. “Neuroimaging Electroencephalography (EEG) Application on Human Electrical Brain Activities During Meditation and Music Listening,” *Journal of Advanced Manufacturing Technology* 13(2-2), pp. 23–33.
- Hökekleli, Hayati. 2012. “Religion, Religiosity, and Research in Psychology of Religion in Turkey: An Assessment of Locality and Universality Problem,” *İlahiyat Studies: A Journal on Islamic and Religious Studies* 3(2). pp. 223–245.
- İnançer, Ö. Tuğrul. 2005. *Gönül Sohbetleri*. İstanbul: Sufi Kitap.
- İştan, İbrahim. 2020. *Sufî Psikoloji Yazıları 1-Manevi Benlik Gelişimi*. İstanbul: Divan Kitap.
- Istiqlomah, Indriana. 2013. “Reduced Addiction in Drugs Abusers Undergoing Dhikr at Ponpes Inabah XIX Surabaya,” *Folia Medica Indonesiana* 49(1), pp. 8–11.
- Kaya, Çınar. 2016. “Rumi from the Viewpoint of Spiritual Psychology and Counseling,” *Spiritual Psychology and Counseling* 1(1), pp. 9–25.
- Koç, Mustafa. 2005. “Türkiye’deki İlahiyat Fakültesi Dergilerinde Din Psikolojisi İle İlgili Yayınlanan Makaleler,” *Bilimname* 2005(2), pp. 107–132.
- Milani, Milad and Adam Possamai. 2013. “The Nimatullahiya and Naqshbandiya Sufi Orders on the

- Internet: The Cyber-Construction of Tradition and the Mcdonaldisation of Spirituality,” *Journal of the Academic Study of Religion* 26, pp. 51–75.
- Mitha, Karim. 2020. “Conceptualizing and Addressing Mental Disorders amongst Muslim Communities: Approaches from the Islamic Golden Age,” *Transcultural Psychiatry* 57(6), pp. 763–774.
- Mirahmadi, Sayyid, Muhammad Nazim Adil Al-Haqqani Naqshbandi, Shaykh Muhammad Hisham Kabbani and Hedieh Mirahmadi. 2005. *The Healing Power of Sufi Meditation*. Washington, DC: Islamic Supreme Council of America.
- Nurbahş, Cevad. 2010. *Sûfi Öğretisinde İnsan ve İnsan Psikolojisi*. Ankara: Kurtuba.
- Öngören, Reşat. 2007. “The Three Dimensional Dream Interpretation of an Ottoman Sufi-Scholar: Kutbuddinazade (d.1480) on Dreams,” *İstanbul Üniversitesi İlahiyat Fakültesi Dergisi* 15, pp. 56–69.
- Peterson, Nils. 2021. “The Music Man: TUMATA and Turkish Music Therapy,” *Liberated Arts: A Journal for Undergraduate Research* 8(1), pp. 1–7.
- Piraino, Francesco. 2016. “Between Real and Virtual Communities: Sufism in Western Societies and the Naqshbandi Haqqani Case,” *Social Compass* 63(1), pp. 93–108.
- Sayar, Kemal. 2016. *Sufi Psikolojisi*. İstanbul: Kapı Yayınları.
- Sevinç, Kenan and Zuhâl Ağilkaya-Şahin. 2015. “Past and Present of Psychology of Religion in Turkey,” in Zuhâl Ağilkaya-Şahin, Heinz Streib, Ali Ayten and Ralph Hood (eds.), *Psychology of Religion in Turkey*. Boston: Brill, pp. 3–30.
- Sezen, Abdulvahid and İlker Yenen. 2009. “Türkiye’de Din Psikolojisi Alanında Ulusal Dergilerde Yayınlanmış Makaleler Bibliyografyası (1956–2008),” *DEÜİFD* 30, pp. 103–137.
- Sezer, Fahri. 2011. “Öfke ve Psikolojik Belirtiler Üzerine Müziğin Etkisi,” *Uluslararası İnsan Bilimleri Dergisi* 8(1). pp. 1473–1491.
- Solaiman, Hanan and Salwa Atyia El Sayed. 2013. “Effects of Zikr Meditation and Jaw Relaxation on Postoperative Pain, Anxiety and Physiologic Response of Patients Undergoing Abdominal Surgery,” *Journal of Biology, Agriculture and Healthcare* 3(2), pp. 23–38.
- Solihin, Muhtar and M. A. Munir. 2017. “The Concept of Sufi Psychotherapy,” *Journal of Engineering and Applied Sciences* 12(10), pp. 2584–2591.
- Sufie, Hidayah. 2017. “What is Medical Music Therapy in Islamic Civilization?” *International Journal of Business and Social Science* 8(3), pp. 195–200.
- Sulistiyawati, Ririn Afrian, Probosuseno, and Sri Setiyarini. 2019. “Dhikr Therapy for Reducing Anxiety in Cancer Patients,” *Asia-Pacific Journal of Oncology Nursing* 6(4), pp. 411–416.
- Ugur, Hacer, Yeşim Yaman Aktaş, Oya Sevcan Orak, Okan Sağlambilen and İlknur Aydın Avcı. 2017. “The Effect of Music Therapy on Depression and Physiological Parameters in Elderly People Living in a Turkish Nursing Home: A Randomized-Controlled Trial,” *Aging & Mental Health* 21(12), pp. 1280–1286.
- Wahyuni, Sri et al. 2018. “Spiritual Dhikr Reduces Stress and Depression Symptom on Primigravidas,” *Pakistan Journal of Medical and Health Sciences* 12(3), pp. 1368–1371.

<オンライン資料>

Diyadinnet, <<https://www.diyadinnet.com/>> (2021年7月28日閲覧).

eShaykh, <<https://eshaykh.com/>> (2021年7月28日閲覧).

Idefix, <<https://www.idefix.com/yayinevi/sufi-kitap/s=9294>> (2021年7月24日閲覧).

Terzioğlu, Arslan, “BÎMÂRÎSTAN,” *TDV İslâm Ansiklopedisi*, <<https://islamansiklopedisi.org.tr/bimaristan>> (2021年7月24日閲覧).